

令和4年

七宝会 普及公演

頭は猿尾は蛇
足手は虎の如くにて

狂言「佐渡狐」

能「鶴」

野村 萬齋

辰巳満次郎

白頭



◆12月6日(火)

(二部公演)

13時開演 / 17時開演

◆枚方市総合文芸芸術センター本館

関西医大小ホール

最も古典にして、
最もアヴァンギャルドな芸能
能楽をみなさまに

七宝会



【番組】

◆13時公演

狂言「佐渡狐」

能「鶴」

佐渡の 野村 萬齋 越後の 野村太一郎 奏者 深田 博治
 百姓の
 シテ 辰巳満次郎 大鼓 辻 芳昭 太鼓 中田 弘美
 ワキ 福王 知登 小鼓 清水 皓祐 笛 貞光 義明
 間狂言 内藤 連

◆17時公演

狂言「佐渡狐」

能「鶴」

佐渡の 野村 萬齋 越後の 野村太一郎 奏者 中村 修一
 百姓の
 シテ 辰巳満次郎 大鼓 辻 雅之 太鼓 中田 弘美
 ワキ 福王 知登 小鼓 荒木 建作 笛 貞光 訓義
 間狂言 内藤 連

◆日時 令和4年 12月6日(火)

13時 開演 (開場 12時半)
 (二部公演)
 17時 開演 (開場 16時半)

◆会場 枚方市総合文化芸術センター本館 関西医大 小ホール

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-1-60

◆料金 S席正面指定席 5,000円 A席指定席 4,000円
 B席自由席 3,000円 学生 2,000円

【解説】

◇能「鶴めえ」白頭

摂津国 芦屋の里を訪れた旅の僧は、化け物が出る噂される海岸の御堂に泊まる。夜半そこへ、一人の男が朽ち果てた小舟に乗って現れた。男は自らを妖怪・鶴の亡魂だと明かすと、帝を悩ませながらも最後には源頼政に討たれて果てた様子を語る。男は僧に回向を頼んで波間へ消えていく。僧が弔っている、鶴の亡霊が真の姿を現し、頼政は鶴退治で名を上げ、帝より獅子王の名を持つ名剣を賜ったが、自分はずつば舟(木をくり抜いて造る丸木舟のこと)に押し込められ、暗い水底に流されたと言語。そして、山の端にかかる月のように我が身を照らし救い給え、と願いながら、月とともに闇へと沈んでいく。

鶴は現実ではトラグミという鳥のことを指しますが、能に出てくる鶴は、頭は猿、手足は虎、尻尾は蛇という妖怪で、鳴く声がトラグミに似ているから鶴と呼ばれたといひます。白頭の特演出がつくと、赤頭の代わりに白頭に変わり型も面も通常とは変わります。

◇狂言「佐渡狐」さどぎつね

年貢を納めに都へ上る途中で道連れになった佐渡と越後のお百姓。佐渡に狐のいるないを巡り賭けとなる。実は佐渡に狐はおらず、狐を知らない佐渡のお百姓は、役人に賄賂を使い嘘の判定を依頼する。しかし役人の「佐渡に狐はいる」という判定に納得のいかないう越後のお百姓は、佐渡のお百姓に狐の形格好を問いただされ…。

◆令和5年七宝会年間会員について

年会費 13,000円

(第1回、第2回、第3回の3公演分含む、普及公演は一、〇〇〇円割引)

※普及公演は別途ご購入ください。

※会員の方は普及公演は第1回公演時よりお申込みいただけます。

※一般の方は第2回公演時よりお申込みとなります。

※年度途中からでも会員に申し込み可能です。

※防疫対策、席数制限など感染症対策をしております。

お問合せ・チケットお申し込み先

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115

会場のご案内



枚方市総合文化芸術センター 本館
 関西医大 小ホール
 京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分